

令和3年度第1回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：令和2年7月13日（火）午後2時～午後4時

場 所：豊田市中心図書館6階多目的ホール

出席者：委 員 10名

事 務 局 6名（教育部、図書館管理課）

関 係 課 5名（学校教育課、保育課、子ども家庭課、
次世代育成課、市民活躍支援課）

指定管理者 3名（TRC・ホームックス共同企業体）

（1）図書館運営について

事 務 局：令和2年度取組実績について説明

指定管理者：令和3年度重点取組項目について説明

事 務 局：令和3年度取組状況について説明

委 員：コロナ禍で大変ななか、様々な試みをしていただき、ありがたい。

30言語の洋書を所蔵しているとのことだが、外国にルーツを持つ人たちの利用状況をお聞きしたい。

事 務 局：どんな人が何を借りたかの統計はとれない。英文多読コーナーは15,400冊貸出されていることから、英語を習得したい方々に活用されているのが中心と思われる。

ただし、外国籍の方々の利用勧奨として、昨年度は図書館のことを知ってもらおうバックヤードツアーを開催した。また、保見地区には、交流館に洋書を多く配架したほか、日本語習得のための赤ちゃん向けの絵本がほしいという要望に対応している。

委 員：支援をおこなっている情報を広く伝えることが、新たな利用につながるのではないか。

委 員：外国人の方々が図書館のことや図書館のことを知るツールについて、交流館等で情報を得られるのかについてもお聞きしたい。

事 務 局：利用案内については、多言語化をしているが、交流館では配布していない。ホームページについては、日本語のみでブラウザの機能で対応をお願いすることになる。

指定管理者：中央館の貸出機について要望があり、貸出機という表記を英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語で実施した。

委 員：交流館等で外国語の利用案内を配布できるようにしていただきたい。

委員：子どもの読書活動推進はたくさんやっているが、社会人向けの取組についてお聞きしたい。

事務局：昨年度はみずほ銀行と連携した講座等を計画していたが、中止になった。その他、大人向けの本の展示を行っている。

委員：商工会議所を通じて会社などに広報すると、図書館に行ってみようと思うきっかけになるのではと考える。

委員：市だけではなく、民間とのネットワークをつなげ、いろいろなところで図書館をPRできるようになるといい。

委員：オンライントークイベントは、世界中の人が参加できてしまう。市民に参加してもらうことが重要だと思うが、何か工夫をしているか。

指定管理者：直近に実施した講座の参加者の内訳は、県内が50%、そのうち市内が30%であった。今後は市内の方に多く参加していただけるようPRや申込方法を工夫していく。

委員：オンラインでの参加が難しい方の支援も必要。交流館等の会議室を利用し会場から参加できる方法も考えるとよい。

委員：コロナの対策で指定管理だからこそできたことをお聞きしたい。

事務局：間仕切りの購入や座席予約システムの導入が速やかにできたこと。行政では、予算の確保や契約に時間がかかってしまう。

委員：それらの費用は、指定管理料でまかなえたのか。

事務局：はい。

委員：松坂屋の撤退、ギャザも店舗数が減少している。まちなかの商店等と連携し、買い物のついでに図書館に気軽に立ち寄れることを実現する“しかけ”があったらよいと思う。

指定管理者：小さなことであるが、とよしばと連携し片方の利用者がもう片方を利用したくなるような取組を行っている。連携先をもっと広げていきたいと考えている。

委員：小さくてもすすめることが重要だと思う。

(2) 豊田市子ども読書活動アクションプランについて

事務局：令和2年度の実績を踏まえた令和3年度取組計画について説明

関係課：令和3年度取組計画について説明

委員：提案がどんどん実現されている。しかし、ワークライフバランスが課題となっているなか、増やす一方ではなく、何が有効な事業で、なに

が衣替えすべき事業なのかを見極めるためのモニタリングを行い、適切な配分をし、無理のない運営を行う必要がある。大学生や社会人になると本を読まなくなってしまうことが、統計でも明らかになっている。大学生や社会人にアプローチする方法を考えてはどうか。

事務局：ティーンズ世代で本離れが進むという実態があるので、そこへのアプローチを主眼としていたため、大学生や社会人へのアプローチが必要というご指摘をいただき、新たな視点を持つことができた。

委員：働きかけのしかたが違ってくると思うので検討していただきたい。

委員：子ども読書活動を推進するために、子どもたちの見本となる大人の姿を見せることが重要だと考える。仕事をしているだけではない、モデルとなる大人の姿をみせ、交流をする機会があればよいと思う。

委員：市内の書店との連携についてお聞きしたい。

事務局：調べる学習コンクールのポスターの掲示をしていただいた。

委員：図書館講座のちらしを置かせてもらうことでもよい。読者を増やすことが書店と図書館のメリットとなる。

委員：こんなにも多くの取組みをおこなっていることに驚いたが、知らなかった。企業に向けての情報提供が有効ではないかと思う。

これは、難しいかもしれないが、在宅勤務が進まない要因のひとつに環境が整っていないことがあると考える。図書館の会議室等を開放していただくと利用者が増えると思う。

調べる学習支援の講座は、とても良いと思う大人向けもあるとよい。

指定管理者：毎年、大人向け講座を実施している。今年度から、新たに保護者向け講座も実施をする。

委員：読み聞かせの取組みはすばらしいと思う。障がいのある子どもたちにも、行っているのか。

事務局：特別支援学校や発達センターにも団体貸出を行っており、福祉に関する本も充実させている。

指定管理者：障がい福祉課と連携し、手話付きおはなし会を予定している。全国でも、めずらしい取組みである。また、バリアフリー映画会を10月に予定しているので委員の方々にもご参加いただきたい。

委員：高校生の不読を危惧している。情操教育にも有効と考え、朝の読書活動を行っている学校もあれば、受験優先で読書活動を行わない学校もある。安城市では、アンフォーレができ、図書館とまちと連携し「新

見南吉のまちづくり」がすすめられている。豊田市でも作家を活用したまちづくりをすすめられるとよい。

指定管理者：阿部夏丸さんや、藤嶋昭教授には講演会を行っていただいた。

委員：読書感想文を小学1年生から書くことは難しい。読書感想文を書かせることで、本を嫌いになってしまう気がする。

事務局：そのことをこちらも危惧しており、今年読書感想文の書き方講座は、小学低学年と保護者を対象にしており、本を読んで楽しかった気持ちを、まとめる方法を学ぶことができる内容となっている。

委員：読書感想文コンクールは、全員出さなくてもよいことになり、全ての子どもに強制することはなくなった。

子どもたちが、タブレットを使うようになり、読書とタブレットで時間の取り合いになっている。小原から中央図書館へ来るには、往復2時間かかってしまう。保護者に中央図書館まで行ってみたいというPRをするのが難しい。近くの交流館をもっと利用できるといい。

委員：市域が広いので、他の場所でも講座が開けるとよい。

委員：中央図書館のツイッターをみたが、ハッシュタグを活用して盛り上げ、広く情報を伝えることができるのではないかと思う。

委員：学校教育課にお聞きしたい。学校間で学校図書館や学校司書の活動に差があるような気がしているが、これは問題なのではないか。

学校教育課：学校司書から学校によって取組状況が異なることを聞いている。管理課が積極的に学校や司書に働きかけてくれているのでパイプ役となれるように努力したい。

委員：学校間の差を小さくするため、学校教育課は適切に対応を進めてほしい。

委員：園の読書活動だけでなく、家庭での読書が重要である。保護者向けの講座を増やしてほしい。

委員：ブックスタート事業は、コロナの影響で絵本を渡すのみとなっている。絵本の大切さを伝える時間を少しでもいただけないか。

子ども家庭課：検診時間を短縮しているのが難しいが、早く再開できるといいと思っている。

委員：医師会と連携して例えばポスター掲示だけでも依頼できないか。

子ども家庭課：医師会はコロナの対応が最優先事項であるため、その他の依頼は難し

い。コロナ終息後に考えたい。

委員：情報を取得する場をたくさん増やすことが必要。読書に関する意識が高くない人にどのように伝えていくのか工夫が必要。